



ボンクリ・フェス2018 "Born Creative" Festival 2018

アーティストック・ディレクター：藤倉大

芸術に世界中の「新しい音」が集まる 「ボンクリ」が帰ってくる！

世界が注目する作曲家、藤倉大がセレクトした
オーバージャンルを1日にギュッと凝縮。
今年によりパワーアップし、9月に開催される。

誰もがクリエイティブに音楽を楽しめるボンクリ

昨年、多くの音楽祭でにぎわうゴールデンウィークに突如登場し話題を集めた「ボンクリ・フェス」が、今年も9月24日に開催されることになった。

この音楽祭はいまや世界各地の現代音楽祭で引っ張りだこの作曲家、藤倉大がアーティストック・ディレクターを務める1日限りの音楽イベントで、テーマはずばり、世界中の「新しい音」が聞ける1dayフェス、だ。

タイトルの「ボンクリ」は「ボーン・クリエイティブ」の略。人は皆、生まれつきクリエイティブティビティを持っていて、たとえば子供はみんな「変な音」が好きだ、という藤倉の子供向けワークショップ体験が出发点。そうした好奇心は子供のころのままでいいんだよ、ということ、いま生まれたての「新しい音」で示したいという藤倉の思いが込められている。

昨年のボンクリでは、藤倉が世界各地よりセレクトしたクラシック、雅楽、電子音楽や実験的ジャズなどの演奏やワークショップが、東京芸術劇場全体で朝から夜まで同時多発的に行われた。なにより興味深かったのは、藤倉がジャンルを問わず集めてきた「新しい音」に反応し、普段クラシックや現代音楽を聴く層にとどまらず多様な音楽ファンが集まっていたことだ。年齢層も子供からシニアまで幅広く、赤ちゃんを連れた友人にも出会った。そして

皆、じつに自由に音楽を楽しんでいた。あちこちでお客さんと話をしながらフットワークも軽く劇場中を動き回るTシャツ姿の藤倉が、なによりもこのフェスの特徴を表していたように思う。

「新しい音」を昼夜問わず自由に体験しよう

屋のプログラムではアトリウムや、館内各所に設けられる「ノマドの部屋」「チェロの部屋」「ノルウェーの部屋」などのテーマ別の「部屋」でコンサートやワークショップが繰り広げられる。なかにはアトリウムでのコンサートや「電子音楽の部屋」のように入場無料、入退場も自由なものもあるので、まずはボンクリを体験してみたいという人にはおすすめです。

今年の個人的な注目ポイントは「合唱の部屋」「パーカッションの部屋」「ルシエの部屋」。「合唱の部屋」ではサウンドスケープの提唱者としても知られるカナダの作曲家マリー・シェファールにスポットを当てる。カールスルーエを拠点に活動する打楽器奏者イサオ・ナカムラ（僕はこの人以上に楽しそうに現代音楽を演奏する人を知らない!）をフィーチャーする「パーカッションの部屋」では藤倉やカーゲルの作品のほか、即興演奏を展開する。そして音そのものの物理的特性に着目するアメリカ実験音楽の鬼才アルヴィン・ルシエ。ルシエは4月に来日し、ジャンルを問わず多くのファンが詰めかけ超満員のライブとなったことは記憶に新しい。

夜のスペシャル・コンサートでは、アンサンブル・ノマドや「ノルウェーの部屋」に出演するヤン・バングらのジャズミュージシャンなど、各部屋に登場する音楽家たちが一同にそろう、さらには昨年同様、大友良英も加わりオーバージャンルの演奏を繰り広げる。ここでの注目は、シカゴ交響楽団のチェリスト、カティンカ・クラインをソリストに迎えての藤倉の「チェロ協奏曲」の日本初演だ。このスペシャル・コンサートを同時中継で楽しめる、0歳児から参加可能な「スクリームの部屋」も今年も設けられている。

また藤倉は本番直前までなにがおきるかわからない、お楽しみ余白をあえて残すという。これらの情報はSNSでも頻りに情報発信されるようだ。

東京芸術劇場に「新しい音」が満ちあふれ、来場者も演奏者も自由に音楽を楽しむ日となるボンクリに今年も期待したい。

文：有馬純寿（音楽家）

9月24日(月・休)

デイトム・プログラム 11:00~17:00 館内各所

赤ちゃんからシニアまで楽しめるアトリウム・コンサートや、ワークショップ・コンサートを館内各所でおこないます。

誰でも楽しめる! 無料プログラム ■アトリウム・コンサート ■電子音楽の部屋(入退場自由)

スペシャル・コンサートのチケットで楽しめる! ワークショップ・コンサート

「スペシャル・コンサート」、または「スクリームの部屋」のチケットをお持ちのお客さまは、ワークショップ・コンサートにご参加いただけます。

■ノマドの部屋 ■合唱の部屋 ■チェロの部屋 ■ノルウェーの部屋

■パーカッションの部屋 ■ルシエの部屋(事前申込制・各部屋定員あり)

詳細はP14・P15へ

スペシャル・コンサート 17:30開演 コンサートホール

一夜限りのスペシャル・コンサート。

脳内を刺激する「ボンクリ」音楽が一夜に集結!

■スクリームの部屋 17:30開演 シンフォニースペース(5階)

未就学児をお連れのお客さまを対象に、コンサートホールでおこなうスペシャル・コンサートを同時中継でお楽しみいただけるお部屋をご用意しました。

@BornCreativeFes

Dai Fujikura: Opera in 4 Acts

SOLARIS

*Libretto by Saburo Teshigawara [based on Stanislaw Lem's novel "SOLARIS"]

東京芸術劇場コンサートオペラvol.6

藤倉大／歌劇『ソラリス』全幕

日本初演、演奏会形式[日本語字幕付原語(英語)上演]

レムのSF小説を原作とした 新作オペラ、ついに日本初演!

世界初演時のソリストを含めた選りすぐりのメンバーによる、
作曲家・藤倉大 初のオペラ作品。

藤倉大のオペラ《ソラリス》が、いよいよこの秋、東京芸術劇場で日本初演を迎える。

藤倉は、ロンドンをベースに国際的な活動を華々しく展開する作曲家。彼のこれまでで最大規模の作品であると共に、最も充実した成果の一つとも目されるこのオペラは、パリの名門、シャンゼリゼ劇場のほか、フランス、スイスの劇場など、5つの団体の共同委嘱作品として書き下ろされ、2015年、パリで世界初演された後、各地で再演が行われて来た話題作である。

原作は、ポーランドの作家、スタニスワフ・レムが1961年に発表した『ソラリス』。このSF小説に基づく72年公開の映画がアンドレイ・タルコフスキーの名を世界に知らしめたことについては、ここに改めて記すまでもなからう。ちなみに、小説と映画、それぞれが独自の世界を持つものとなっていること、それ故に小説家と映画監督の間に大きな対立が生まれたとのエピソードも、知る人ぞ知るどころか。

藤倉のオペラは、ダンス界の巨匠、勅使川原三郎とのコラボレーションにより生まれた。勅使川原は、台本をはじめ、初演、及びフランス、スイスにおける公演では、演出に加え、装置、照明、衣装などのコンセプトをも手掛けたほか、佐東利穂子、そしてニコラ・ル・リッシュというスター・ダンサーと共に自ら舞台にも立ち、公演大成功の文字通りの立役者ともなっていた。

言わずと知れたレムの古典的名作に、勅使川原は、そして藤倉は何を見出したのか。時は未来、宇宙空間、謎に満ちた惑星を舞台に不可解な事象が展開する『ソラリス』は、もちろん、何よりも、サイエンス・フィクションである。と同時に、そこには極めて多層的な広がりがある。異文明との接触などを軸に、哲学的、形而上学的地平を形作ると共に、かたや、自ら命を絶った妻、その「コピー」と主人公との関係を巡る一種のラブ・ストーリーでもある。あるいは、妻の死に自責の念を持ち続けてきた夫が、妻本人でないばかりか、さらには人間でさえない「コピー」に抱く愛と苦しみ、困惑、錯乱のストーリーを通して、より深く普遍的な命題を問いかけているとも言えようか。

例えば、二人の間で繰り返し交わされる愛の言葉。一見、ありふれた歌詞のようだが、その意味するところは、斯くなるコンテキストにおいては、凡百の「愛の場面」とは一線を画し、一つ一つ、現れる度に大きく姿を変えとも言えるほど、多様だ。

その陰影を藤倉は巧みに描き出していく。



登場人物4人、加えて主人公の「心の声」を語り、歌う舞台裏のもう一人のバリトン、というキャストと室内オーケストラ、そしてライブ・エレクトロニクスを用いた彼のスコアは、緻密にして、極めて効果的なオーケストレーションと相俟って、幻想的、夢幻的シーンから激しい対立まで、物語の進行、そして登場人物たちの心象までも、舞台さながらに描き出す。

作曲家自身が監修する今回の演奏会形式による上演は、藤倉作品の真価を東京の聴衆に問う設えとして、まさに理想的だ。

加えてそこには、彼の音楽の魅力のエッセンスのみならず、作品の創作、及び世界初演において中心を担った勅使川原が求めたものが、鮮やかに透し彫りにされるだろう。

藤倉の最初期のオペラの試み、音大の卒業試験のために書かれた《This could be Beautiful?》(後に撤回・作品表から抹消)をロンドン東部、ホクストンの小さな劇場で観たのは、既に20年近く前のことだ。その後、瞬く間に頭角を顕し、爾来、音楽シーンの最先端を疾走し続けてきた彼からは、多くの管弦楽曲などと並んで、オペラの構想についても様々な話を聞いた。今年初めには、E.A.ポー原作による子供のためのオペラも世に送り出している。

そうした仕事の数々の中でも、《ソラリス》は特別な位置を占める作品である。10月の公演が何より俟たれる。

文:岡部真一郎(明治学院大学教授・音楽学)

10月31日(水) 19:00開演 コンサートホール

詳細はHPへ

ハリー:三宅理恵
クリス・ケルヴィン:サイモン・ベイリー
スナウト:トム・ランドル
ギバリアン:森雅史
ケルヴィン(オフステージ):ロリー・マスグレイト
指揮:佐藤紀雄
管弦楽:アンサンブル・ノマド
エレクトロニクス:永見竜生[Nagie]

